



# 大崎町立 中沖小学校

児童数 63人  
学級数 7クラス



テーマ

主体的に学び合い、互いを認め合う子どもの育成

## 研究に当たって(テーマ設定の理由)

本校の児童の実態として、自尊感情が低い児童が多いことが挙げられる。そこで、「人権が尊重される学習活動づくり」「人権が尊重される人間関係づくり」「人権が尊重される環境づくり」の三つの視点から研究を進め、児童に確かな学力を付け、自己肯定感を養い、全教育活動の基本理念である人権同和教育の充実を図りたいと考え、本テーマを設定した。

## 研究スケジュール

6月1日(月) 職員研修  
「人権同和教育に関する研修」  
10月26日(月) 職員研修  
「テーマ研究授業・授業研究」  
12月4日(金) 家庭教育学級  
「人権同和教育講演会」  
人権教室

## 特色ある取組(他校にもおすすめの取組)

### □ 共通実践事項の確認

研究テーマにおける「目指す児童の姿」、全学年統一した「学習の決まり」、国語・算数における「授業の流れ」を作成し、全学年で活用を図った。

### □ ユニバーサルデザインの視点を生かした授業づくり

県総合教育センター資料「授業におけるユニバーサルデザイン・チェックリスト」を活用し、授業の流れや教師の発問・指示、学習用具の掲示や児童の活動について、人権教育の視点を意識して授業を行うようにした。

### □ 集会活動の工夫

学年部ごとに『人権教室』、全学年で『人権集会』を実施した。人権教室ではDVD視聴やワークショップを通して人権について考え、人権集会では人権標語の発表やペープサートを活用しながら人権感覚を育むことができた。



【授業の様子】



【人権集会の様子】

## 子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題(子どもの変容,よかったこと,今後やってみたいこと)

- 学び合いの中で自分の考えをもち、友達に考えを伝えたり、友達の考えを聞いて感じたことを伝え合ったりする場面が多く見られるようになった。また、教師の側も発問の精選や板書の構造化など、ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりに努めることができた。
- 人権教室や人権集会等は、日頃は意識することが少ない人権に関して児童が深く考える良い機会となり、友達と協力して過ごしていこうという感情が芽生えてきた。
- 毎年、活動内容を検討し、人権について考える場を継続的・計画的に設定していきたい。